

# J-CEF NEWS

no. 6

2015 WINTER

## リレーエッセイ

○ Lさんへ ～阪神・淡路大震災から20年の年に

／実吉威（認定NPO法人 市民活動センター神戸 理事・事務局長／公益財団法人 ひょうごコミュニティ財団 専務理事）

## 実践事例紹介

○ 市政に関わる手応えを感じ、育つ取り組み

／芝原浩美（特定非営利活動法人ユースビジョン 事務局長）

## 書評

○ 支援のフィールドワーク ―開発と福祉の現場から―（小國和子、亀井伸孝、飯嶋秀治 編著）

自閉症連続体の時代（立岩真也 著）

／湯浅雄偉（NPO法人 コミュニティーワーク研究実践センター 月形事業所職員）

## 特集

○ 「シティズンシップ教育を進める上で何を大切にすべきか？」

／村上千里（認定NPO法人 持続可能な開発のための教育の10年推進会議 理事・事務局長）

／笹井宏益（国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部部長）



Lさんへ

## ～阪神・淡路大震災から20年の年に～



認定NPO法人 市民活動センター神戸  
理事・事務局長／  
公益財団法人 ひょうごコミュニティ財団  
専務理事  
実吉 威

Lさん、私をこの市民活動という世界に引きずり込み、あなたを始め沢山の素敵な人たちと引き合わせてくれたあの震災からもう20年が経ちました。あなたが天国へ旅立たれてからも、もうかなりの月日を閉じています。その後の日本社会のありようを、あなたは天国からどのように見ておられるでしょうか。また昔のようにLさんの鋭い社会評を伺いたいものです。

NPOなんて言葉がまだない頃から、あなたは今でいうNPO・NGOが活躍する社会を見据えていました。見えないものを見る力がビジョンだとすれば、まさにあなたはビジョンの人でした。NPOのNon ProfitよりもNGOのNon Governmentalの方が大事なんだ。よくそう仰っていましたね。100%共感します。最近はソーシャルビジネスと言ったり社会的企業と言ったり、ビジネス的手法で社会課題に取り組む事業体も増えています。想定されていたNGOとは少し違う感じのものも多くありますが、関わる人の層も数も20年前よりは圧倒的に拡がり、広い意味で

の社会的活動の幅が広がってきています。若い人を中心に、NPO職員というものが職業の一つとして選ばれるようになったのは20年前からするとまさに隔世の感。そう思う私ももう50手前のオジサンです（そう書いて、Lさんが亡くなられた歳に自分が近づきつつあることに気づいて愕然とします）。

「NPOはNPOだから尊いのではない。人を幸せにするから、社会に変革や新しい価値観をもたらすから尊いのだ」。よくそう仰っていました。あなたも深く関わられたNPO法制定からしばらく、NPO法人の設立自体を行政や中間支援組織が追求していた頃のことです。「NPOは少数者の声なき声を代弁するから、体制の側ではなく、常に当事者の側に立とうとするからこそ尊いのだ」とも。これは常に私が立ち戻る原点になっています。

NPOとかNGOとか、ソーシャルビジネスとか市民事業とか、そういう分類や定義はどうでもいい、要は何を成し遂げるかだ。そういうLさんの声が聞こえてきそうです。阪神・淡路は「未

曾有の」大災害と言われましたが、あれから16年後、それをはるかに超える巨大災害が日本を襲いました。原発事故もあり、それから4年、この社会はいまだに大きく揺れ続けています。国際社会でもこれまでとは質的に違うことが起こりつつあり、国際的なつながりづくりにも尽力されたあなたは心を痛めておられることでしょうか。社会が縮んだり揺れたりするこんな時代だからこそ、狭い分類を超えた大きなネットワークや連携が、これからますます求められてくると思います。

NPOは最高の市民教育の場だと仰っていましたよね。でもNPOもタコツボに陥りがちです。また、社会に認知されることを求めるあまり、見かけ上の成果を追ってしまうところもあります。狭義のNPOを超えて、より良い社会のあり方を模索する市民たちが、ゆるく広く、連携していかなければと思います。この社会の行く末を、どうぞ天国から見守っててください。

実吉 威 (t-jitsuyoshi@kobekec.net)